

あの頃の時あの台

大崎 一万発 おおさき いちまんぱつ

パチンコ情報誌「パチンコ必勝ガイド」(白夜書房)元編集長。現在はフリーランスとして多数のファン雑誌・情報誌に連載を持つ傍ら、テレビ・ラジオの専門チャンネルやホールイベントでも幅広く活躍中。自称セミプロだが、その実態はただの沖スロ中毒とか。「パチスタ☆TV レバーオン!!!」にもゲストで出演中!

大崎一万発のらぶパチBlog <http://love-pachi.grublo.jp/>

第17話 僕こそがラッキーボーイ

パチンコ打ちなら誰もがあこがれる「調整ミス」のお宝台。現在では打てることなど奇跡と言ってもいいが、昔はそれがゴロゴロしてたんですね。パチ屋がまだドンブリ勘定だった時分の、懐かしいお話。

ヘソに入ってたの10回ある!? そんな時代もあったのです

4日で終わったK店の宴
さてどうする大崎青年?

並びも競りもなく、ボンヤリ打つてりや日当5万円が転がり込む。てなパチンコが未来永劫続くとは、超お気楽人間の僕でも思っていない。しかし宴の幕切れは予想よりもず〜と早く、あまりにもあつけなくやつてきた。初日(開店2日目)に37500円の勝ちを決めた後、22700円、739000円、285000円と、徐々にシマリながらも期待値なりの堅調な勝負が続いた5日目。平常営業に上がったその日に、出玉関係の釘も含めていきなりコテンパンの完シメでシ・エンド。千円30回転をこえて、出玉350000程度にまで落ちては遊びと

ラッキーボーイ (平和/1990年)

センチュリーBと同じく大量出玉がウリのデジタルパチ。遠すぎるオマケまでの道のりをフォローする、強引な釘調整にウツリ。



基本データ	
大当たり確率	1/280
賞球	7&13
大当たり出玉	約3000~4000個
備考	大当たり確率はあくまで表示上のもの。もう少し良かった説もあるが、詳細は今でも不明である。

しても打てる状況ではない。僕も5人の歌舞伎町侵攻は、わずか4日で終焉を迎えてしまったのである。この年の5月、新規店の一発台「ベータ」を1ヶ月使い続け、100万円以上の収支を叩き出したTさんの逸話を聞いていただけに、たったの4日&トータルで20万にも満たない結果にはガツカリだったが、それでもK店は、収支以上の満足感を僕にもたらしてくれた。「回る台は粘れば結果が出る」という、立ち回りの基礎の基礎を身体に刻み込むことができたし、また同じ台を5日間にわたって追ったことで、釘読み力(IIタテの比較)も大いに向上した。10月の戦績は、18勝7敗のプラス34万16000円。T会の一員となつて4ヶ月、K店のおかげで、やっ

とこさパチプロとしての立ち回りに手応えを感じることができたのだ。

さて、宴が終わればキツチリ気持ちを切り替え、次なる目標に向かつて牙を研ぎ澄ますのがプロとしての務めである。しかし僕は、その後しばらく腑抜けたような遊びのパチンコに没頭してしまつた。遠征をかけることもほとんどなく、近所のパチ屋で好きな羽根モノばかりチンタラ打つて、K店後3週間の収支はわずか513000円。いやいや、本来ならまずまずパチンコが面白いとなつて、ガツガツ稼ぎに入るべきタイミングのところ...どうしてこんな自堕落生活に舞い戻ってしまったのだろうか? 生涯初の月間30万越えに浮かれてしまったのか、それともやっぱりパチンコって簡単だとナメ切つてしまったのか?。記録を見返してみてもその理由はさっぱり思いつけないのだが。

再び(いや二度か?)転落しかけた僕を救ってくれたのは、やっぱりTさんだった。
「立川のM店にラッキーボーイとかがいうセブン機が入つたんだけど、使えてるみたいなんだよな。会の人間は3人しか入つてないし、オマエ行つてくれれば?」
Tさんは別の店で権利をつけている台があつて、M店には行けないという。それならば...と腰を上げたのは、11月15日のことだった。

強引すぎるオマケの調整が 思わぬお宝台を生んだ

プロがほとんどいないというので、余裕をこいて10時ジャストにM店着。新装3日目だというのが、ワンボックス40台ほど並んだラッキーボーイのシマは、ほぼガラガラである。歌舞伎町で一緒に打つた水野プロの姿を認め、初打ちとなるこの台の情報を入れるため、缶コーヒを持って挨拶に行つた。
「40回回る台はないと思うけど、ほらここ、換金がいいから。僕は35回で十分勝負になると踏んだんだけどね」

M店は、当時としては非常に珍しかった3円(33個)交換のホール。水野さんによれば、出玉35000個超は期待できるとのことなので、大当たり1回で1万円以上の換金額となる。公称の大当たり確率は200分の1、破格の低さが不安ではあるが、確かに35回の台を見つければ十分仕事になる。38回くらいあるという水野さんの台を目に焼き付け、良く見える順に空き台を打ち回すことにした。と、20台目に妙な挙動の台に行き当たつた。ヘソに入っていないのにデジタルが回るのだ。何じゃこりやと球筋に目を凝らしている...すくさま原因が判明。オマケチャッカーの作り方をミスつたらしく、通常時でもオマケ方向に玉が

流れるのである。ラッキーボーイのオマケは、13個賞球のスタートチャッカー。つまり、玉持ちが良くなると同時に回転数も上乘せできるという、二重の意味でオイシイ、文字通りにラッキーな台だったのだ。特にヘソが大きいのというわけでもないのに、プロたちからも見逃されていたのである。
盤面写真を見ていただきたい。大当たり時に開放するアタッカーは、中央役モノ左右の「OPEN」と描かれた羽根である。寄りのヨロイ釘伝いに落下してきた玉は、羽根先に当たつて肩チャッカー下に飛び込み、強引に作られた釘の袋を通過して最下段の「GO」と描かれたオマケに向かう。写真で見えるかどうかわからないが、かなりムチャな調整をしないとオマケの役割を果たさず、特にオマケ上の命釘などは、異常と言つてもいい曲げられ方をしていた。僕の台は、羽根が開かなければ入らないはずの肩チャッカー下に、何の弾みか千円5、6個程度は飛び込んでくれたのである。

秘密は...申し訳ないが水野さんにも明かすことはできなかった。
M店2日目。釘は据え置きだったものの、ヒキに恵まれず130000円のマイナス。3日目も据え置きで、前日の不ツキを取り返す630000円の大勝ち。4日目の日曜日になつて、やっとヘソがシマつた。水野さんはじめT会の連中は全員撤退したが、オマケで回っている僕の台はまだ使える。プロ一人つきりとなつた中で、前日に続いて大当たり20回、プラス660000円の大爆発。5日目、さらにシマつてギリギリの釘になつたが、しつこく追つて150000円。そして6日目、止まらないう出玉に業を煮やしたのだらう。オマケの入り口を外に振られ、ラッキーボーイでのラッキーな日々はついに終わりとなつてしまつた。
このような「調整ミス」の台が、開店から1週間もほつたらかしにされていたら、まさに当時を物語るエピソードだ。ホールコンピュータの性能が向上し、回転率だけでなくベース値まで詳細に管理される現在では、下手すれば初日の営業中に「故障台」として止められる可能性すらある。当時M店がどんなホールコソを使つていたかは定かでないが、おそらくは大当たり回数と打ち込み玉数、トータル差玉ぐらいしか上がらない簡単なシステムだったのだらう。今は昔の物語である。

あの頃は...

どうでもいい話であるが、当時M店で打つていたある強面のベテランプロが、ラッキーボーイのことをずっと「ラッキーボウヤ」と呼んでいたのがやたらと可笑しくて、今でも忘れられない。Hさん、元気かなあ? 噂では何かして逮捕されたとも聞いているのだが...

こぼれネタ...

ちなみにこのK店、寄生虫である僕たちですらその稼働状況を懸念する大失敗の新規オープンだったわけだが、なんと年末を待たずして閉店の憂き目に。その後、別資本のスロ専などが入居したりもしたが、これも長くは持たず、現在は空き店舗となっている。